校内授業協議会の研究
—司会者の発話機能のケーススタディ—

○河野義章（東京学芸大学） 渡邊千佳＃（静岡市立長田東小学校）

キーワード：授業協議会，司会者，発話機能

問題と目的

「研究授業」というキーワードは，「Lesson Study」として世界の教育界で注目を集めて久しい。学校の先生方が，授業の改革・改善の主体になることに興味がもたれているようである，しかし，わが国では，あまりにもルーチンワーク化してしまい，その効果を疑問視する声もあがっている。授業が終わった後にもたれる研究協議会が形骸化していることが，一因と考えられる。

そこで本報告は，研究協議会そのものがどのように行われているかをメタ認知するための視点として，司会者の機能に注目する。

方　法

調査対象者　都内の大学附属の小学校における算数と英語のそれぞれ 1 時間の後の研究協議会の参加者。

材料　研究協議会における全体協議の様子を収めた VTR 記録を文字化した記録。協議会の Table 1 に示す。

Table 1　研究協議会の概要

	算数	英語
挨拶・講師紹介	4分23秒	2分57秒
教科部の提案	5分54秒	10分11秒
授業者自評	ー	4分26秒
グループ協議	22分52秒	17分07秒
全体協議	59分53秒	61分13秒
講　評	19分14秒	27分45秒
謝　辞	3分52秒	4分28秒

結果と考察

全体協議会における発言数

司会者・授業者・参観者の発言回数(話し始めから終わりまで)は，Table2 に整理した。

Table2　発言回数

	算数	英語
司会者	15（37.5）	34(50.0)
授業者	7（17.5）	9(13.2)
参観者	18（45.0）	25(36.8)
計	40（100）	68(100)

発言のターン

算数及び英語の全体協議会における，司会者・授業者・参観者の間の発言ターンを Figure 1 に示す。

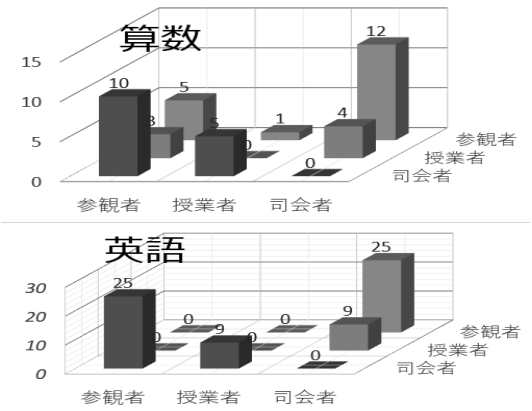

Figure 1　発話のターン

算数では，かろうじて，参観者から授業者へ，その逆の授業者から参観者へのターンが，それぞれ 12.5%あった。英語では，ともに 0 であり，丁々発止の話し合いとは程遠いものであった。

司会者の発話の機能

Table 3 には，司会者の発話（センテンス）数を機能別に整理した。

1. 発言数と発話数をくらべると，算数の 1.2 に対して英語は，2.9 であり，算数の司会者は，単調な話し方をしている。「指名」の数の影響もある。

2. 算数も英語も，話し合いの「ねらい」がふれられていない。これは，話し合いの「成果」への言及もないことを意味している。

3. 会話を深める「まとめ」「確認」が少ない。

Table 3　司会者の発話機能

カテゴリー	算数	英語	例
ねらい	0(0)	0(0)	今日は，~について
進行	0(0)	9(8.9)	15分ほど話し合ってください。
方向づけ	6(33.3)	20(19.8)	~についてお話ください。
指名	2(11.1)	32(31.7)	●●さん，お願いします。
まとめ	2(11.1)	13(12.9)	~といいたいのですね。
確認	0(0)	4(4.0))	~ですか。
意見	0(0)	3(3.0)	~だと思います。
誘導	5(27.8)	7(6.9)	意見がありませんか。他に。
社交	1(5.6)	13(12.9)	ありがとうございました。
不明	2(1101)	0(0)	（聞きとれない）
	18(100.0)	101(100)	